

科研費

25年度新規採択は28件

2025年度の科学研究費助成事業（科研費）の専修大学の採択件数は、新規と継続分を合わせて97件、直接経費1億1460万円。このうち新規採択は28件だった（表参照）。

新規採択の研究種目別の内訳は、1人または複数の研究者が行う「基盤研究」が20件、博士の学位取得後

8年未満の研究者が1人で行う「若手研究」が2件、日本学術振興会特別研究員が行う研究に交付される「特別研究員奨励費」が4件、「研究成果公開促進費」は2件だった。

科研費の採択について、独立行政法人日本学術振興会が4月、交付内定を発表した。

氏 名	所属・職名	研究課題名
基盤研究（B）		
岡 田 穰	商学部教授	能登半島地震によって変化した海岸環境と地域住民との新たな共生を実現するには？
金 井 雅 之	人間科学部教授	アジアにおける社会的ウェルビーイングの継続国際比較調査
基盤研究（C）		
板 井 広 明	経済学部教授	持続可能な経済における食の倫理の社会経済思想史的研究：功利主義・自然・ケア
鈴 木 将 覚	経済学部教授	法人税の国際的課題
松 井 暁	経済学部教授	ポストソ連型社会体制の時代における新しい社会主義経済論の動向と課題
森 啓 輔	経済学部准教授	沖縄市民社会における社会運動圏の相互行為の実証分析：イベント・言説・ネットワーク
塩 野 直 志	経営学部教授	物流公共インフラ構築に関する研究
間 嶋 崇	経営学部教授	組織における障害者との包摂的な協働の探究
瀬 下 博 之	商学部教授	有限責任制に起因する企業行動の歪みを是正するための事前と事後の規制の在り方
西 居 豪	商学部教授	業績管理会計の研究・教育・実務のより有益なトライアングル体制構築に向けた研究
柏 木 悠	商学部准教授	足底剪断圧力計測方法の確立から歩行・走行動作中の足部力学的仕事量定量化の試み
植 村 八 潮	文学部教授	学校図書館を中心とした雑誌利活用教育（MIE）の実証的研究：日米英を対象として
苅 谷 愛 彦	文学部教授	地形学・地質学・年代学から解読する深層崩壊と堰き止め湖沼の形成－消滅の全過程
土 屋 翔 一	ネットワーク情報学部教授	全域Halin graphの存在性を保証する次数条件について
麻 田 萌	人間科学部特任教授	巡回相談による保育者の主体的参加を促す保育カンファレンス導入モデルの開発と実証
池 尾 玲 子	国際コミュニケーション学部教授	英語小説における話法の通時的研究：19世紀から現代まで
根 岸 徹 郎	国際コミュニケーション学部教授	ポール・クローデルとフランス第三共和国の文化的側面における極東理解の調査研究
宮 本 文	国際コミュニケーション学部教授	アメリカ詩におけるフラヌール（都市の遊歩者）の系譜
加 藤 克 佳	法務研究科教授	刑事再審法制の改革——適正迅速な誤判救済のために
田 代 亜 紀	法務研究科教授	「文化戦争」に起因する表現の自由の現在の問題とそれに対する憲法学的指針の探求
若手研究		
高 原 豪	経済学部准教授	医薬品の消費者向け広告（DTCA）に関する経済分析
牧 野 功 樹	商学部准教授	中小企業の経営者能力と計画策定・運用プロセスに関する経験的研究
特別研究員奨励費		
小 川 歩 人	日本学術振興会特別研究員	ジャック・デリダにおける「無条件性」の思想の生成と発展に関する研究
川 里 卓	日本学術振興会特別研究員	「情動」を基盤としたベルクソン哲学と小林秀雄批評の美学的再構築
児 玉 恵 美	日本学術振興会特別研究員	レバノン内戦後の日常生活に根差す宗派対立：メディアによる言説生成と人々の受容
長谷川 朋太郎	日本学術振興会特別研究員	1960年代フランスにおける構造主義哲学の誕生：全体性・意味・構造の概念から
研究成果公開促進費（学術図書）		
小 西 杏 奈	経済学部准教授	租税のヨーロッパ統合史—付加価値税の創設から世界的普及へ—
渡 辺 達 朗	商学部教授	神田神保町古書店街と組合組織—戦時統制下における役割の変遷を中心に—

有意義な夏期休暇を

学生部長 佐竹弘靖



夏期休暇期間（今年は8月3日～9月21日）には、サークルやゼミナールの合宿、国内外への旅行に出かける人も多いことだろう。学生時代にしかできないことに積極的に取り組むのはその後の人生に大きく影響するはずである。ぜひ夏期休暇を有効に利用し、有意義な時間を過ごしてほしい。

年々深刻化する気温上昇。早めに水分補給を行い熱中症を予防するとともに、突然の自然災害にも十分に注意していただきたい。

学生部では飲酒事故防止を最優先課題の一つとして注意喚起を行っている。特に未成年の飲酒や飲酒の強要はやめていただきたい。また、昨今SNSによる詐欺・マルチ商法への誘いや薬物の売買・使用についての誘惑も横行し、学生が巻き込まれる事件が増えている。身につけた正しい知識のもと、安易に誘惑にのることなく、「断る勇氣」を持ち、被害にあわないように心掛けてほしい。

学生生活のホームページに掲載されている事件・事故の諸注意を確認するとともに、緊急時の場合には大学へ連絡していただきたい。

特撮監督 尾上さん公開インタビュー



学生にメッセージを伝える尾上さん

国際コミュニケーション学部 特撮監督・尾上克郎さんへの公開インタビューが6月6日、神田キャンパスで行われた。インタビューは、映画・演劇が専門の松田智穂子国際コミュニケーション学部教授。映像技術の第一人者である尾上さんに、映画人としてのキャリアや制作環境の変化などを聞いた。

尾上さんは『シン・ゴジラ』（16年）で准監督、特技統括を、『新幹線大爆破』（25年）で准監督を務めるなど、さまざまな作品に携わってきた。公開インタビューでは、「機材が安くなり、種類も増えたことで、特撮に求められる質が上がった。しかし、道具が変わっただけで、素晴らしい映像を見せたいという制作者のメンタリティーは変わっていない」と述べた。また学生に向け「現場で求められるのは、自分に与えられた仕事を一生懸命にやること」「同世代の仲間をつくるのが大切だ」など、深い人生経験から導き出された言葉を伝えた。

一般学生や本学映画研究同好会のメンバー、特撮愛好家ら100人を超える方が来場した。又賀俊哉さん（国コミュ4）は「映画が好きなので、特に撮影現場での話は面白かった。卒論で特撮について触れたいと考えており、深いところまで話を聞くことができ、とても参考になった」と話した。



あの日あの夏の体験は今でも心を彩る大切な思い出だ。

濱口遥登さん（経済2）

2）写真：小学5、

専大カップに出場——

濱口 遥登さん（経済2）

あの夏の体験は一生の宝物

6年生のときに、「専大カップ」に出場。5年生では優勝を果たし、6年生では選手宣誓を務めた。「憧れの横浜スタジアムで試合できたことは本当にいい経験だった」と振り返る。

区の栗木ジャイアンツに所属。5年生だった16年は決勝戦に出場。翌年は主将を務め、抽選会で選

言葉を考え、力強く大役を果たした。

開会式と決勝戦は横浜スタジアムで行われ、普段試合をしているグラウンドとはまったく違う景色で、人工芝の感覚も新鮮だった。試合ができたことが本当にうれしかった」と振り返る。



第19回神奈川県学童軟式野球選手権大会

8月8～15日 県内球場で開催

「2025専修大学カップ神奈川県学童軟式野球選手権大会（主催・専修大学・神奈川県野球連盟）が8月8日（金）から15日（金）まで開催される。神奈川県各支部の予選を勝ち抜いた代表54チームがトーナメント戦を展開する。

【開会式】8月8日（金）9時 横浜スタジアム

【決勝・閉会式】8月15日（金）9時 横浜スタジアム

※今後の状況により変更することがあります。

この大会をきっかけに専修大学を知り、迷わず進学を決めた。現在は男子ラクロス愛好会で汗を流す。「いまでも毎年、テレビで専大カップを観戦する。今の選手の皆さんも全力を尽くしてがんばってください」とエールを送る。



他者が直面する困難にも目を向けよう

筆者の小学校入学は2000年。「ゆとり教育」ど真ん中の世代である。大らかに育った自覚はあるが、それを「厳しさに耐性のない世代」と一括りにされることには悔しさも感じてきた。そんな筆者も教員になった今、「最近の大学生は」「私が学生の頃はもっと」という禁断のフレーズを使う誘惑に駆られそうになることがある。どうやら、自身の未熟さを棚に上げ、後進に自身と同等かそれ以上の振る舞いを求めたくなるのが人間の悪い性であるらしい。戒めなければならないと強く思う。

ハラスメントにはさまざまなあるが、とりわけ職場や教場で生じるハラスメントには、こうした心の作用が原因となっているものが多い。「自分が新人／学生のころはこう鍛えられた」「以前は新人／学生に厳しく接してもその分成長してくれた」という過大

評価に、「今どきの若者は」という幻想が重なっているから厄介である。

ひとつの提案は、「その世代はその世代の困難の中を生きている」という理解を持つことである。

たとえば現在の大学生は、SNSの発達と共に多感な時期を過ごしてきた世代である。彼ら／彼女らの「誰も傷つけない言葉選び」の能力には驚かされることがある。ゼミに時折訪れる「沈黙の数分間」は、消極的なように見えて、柔らかな言葉を準備するための優しい時間であるのかもしれない。

ある人の弱さに見えるものは、その人の強みの裏返しでもある。他者が直面する困難を理解し、その人なりの闘い方を尊重して接することも、ハラスメントのないキャンパスづくりに向けた一歩となるのではないだろうか。

（キャンパス・ハラスメント対策室員、渡邊有希乃）

キャンパス・ハラスメント対策室

TEL：044-900-7858

E-mail：camhara@acc.senshu-u.ac.jp